

# プランナース・アイ・サロン (PES)

世話人：計画系研究室/鈴木奏到

都市・地域研究室/鈴木弘之、渡邊一成

都市政策研究室/矢嶋宏光

## プランナース・アイ・サロンとは？

本サロンは、現代の社会潮流や新たな都市計画の動向に注目し、講演会や勉強会等を通じて、プランナーとしての目を養うことを目的に、平成9年1月に発足したIBSの自主活動の場である。

また、財団の役割として、IBS内外の自主的参加を基本とし、都市計画プランナーをはじめとする異業種間交流による人的ネットワークの形成、フリーディスカッションを主体とした若手プランナーの育成、次世代の計画分野に関する情報交換とそのストックによる情報発信機能を担うことをねらいとしている。

## これまでの活動経緯

### (1) 勉強会の実施

次世代型計画論の新たな枠組みを再考するため、以下の4つの研究テーマを設定し、これを題材にサロン参加者から話題提供をしてもらい、多角的視点から討議・情報交換を行った。

### <研究テーマ>

- ①都市の魅力
  - ・魅力の指標と方向性
  - ・都市に中心市街地は必要か？
  - ・魅力ある都心空間のあり方 等
- ②協議型計画手法のあり方
  - ・住民と行政の協働型まちづくり手法
  - ・PI手法による合意形成
  - ・各手法におけるプランナーの役割 等
- ③広域都市圏計画のあり方
  - ・広域都市圏計画の必要性
  - ・交流都市圏形成による生き残り戦略 等
- ④環境共生型まちづくりのあり方
  - ・建前だけの環境共生型計画の脱却
  - ・適正な環境影響評価結果の公開と協議
  - ・循環システムの構築 等

### (2) 講演会の開催

勉強会における研究テーマの課題解決の糸口を見つけるため、表1に示す関連分野の専門家を招いた講演会を開催し、テーマの掘り

表1 講演会の開催経緯

回数	講演日	演題	講師	研究テーマ
第1回	H9.4.15	「都市環境を評価する」	林山泰久/東北大学	・都市の魅力 ・環境共生
第2回	H9.7.4	「花はまちづくりの華か？」	大熊久夫/IBS	・都市の魅力
第3回	H9.11.28	「オランダの都市計画の現状」	司波 寛/都市総合計画	・都市の魅力
第4回	H10.2.26	「ドイツの都市計画のしくみ、ドイツと日本のまちなみの比較」	ジルケ・フォークト/ ボン大学	・都市の魅力
第5回	H10.3.6	「都市とマスメディアについて」	森野美德/日本経済新聞	
第6回	H10.12.4	「全市民参加による都市計画の試み ～「シティプラン」バンクーバー市～」	榎戸敬介/ブリテッシュ・ コロンビア大学	・協議型計画
第7回	H10.12.16	「都市の魅力を探る～City Comfort～」	矢嶋宏光/IBS	・都市の魅力
第8回	H11.1.22	「アメリカの広域行政 ～ポートランドメトロの勤務経験を通じて～」	後藤太一/鹿島建設	・広域都市圏
		「アメリカのPIの実態 ～DOT、MPOのPIと住民意識～」	寺部慎太郎/東京大学	・協議型計画
第9回	H11.9.21	「都市計画法の抜本改正について」	渡邊一成/IBS	・広域都市圏

下げを行うとともに、サロンにおける情報ストックの充実を図った。

### (3) 先進事例の視察

本サロンの主目的であるプランナーとしての目を養う上で、先進事例を視察・ヒアリングし、その思想、計画プロセス、推進体制など文献や講演では得られない生の情報を収集することは、貴重な経験であり、この積み重ねが次世代型計画論を展開するためのベースとなる。

本サロンでは、地方中小都市における市街地活性化の動向と工夫を把握するため、3大都市圏の影響範囲外にあり、歴史的ストックを備えながら、近年の広域交通施設整備の有無により変革を余儀なくされた長野県の3都市（長野市、小諸市、須坂市）を選定し、平成10年7月24日～25日の2日間、視察及びヒアリングを行った。

表2は、視察した長野県の3都市の特徴を比較評価したものである。3都市を市街地の活性化の視点から考察した結果、興味深い知見が得られた。

表2 長野3都市の比較評価

	長野市	小諸市	須坂市
人口*	357千人	45千人	55千人
歴史的ストック	善光寺	懐古園 旧街道	歴史的 街並み再生
交通アクセス	新幹線等 幹線道路	しなの鉄道 等	長野電鉄 幹線道路
市民意識	行政主導	官民不在	市民主体
市街地の盛衰	→	↘	↗

\*：平成11年3月31日現在の住民基本台帳人口

長野市は善光寺という全国区の歴史的資産を有しながら、行政主導・交通基盤整備型のまちづくりに傾注したため、市民の顔が見えなかった。

小諸市は懐古園や歴史的建造物があるにも関わらず、駅前通りの商店街はさびれており、官民不在の印象を受けた。

ところが、須坂市は住民自らが「信州須坂町

並みの会」を設立し、蔵の保存や再建に尽力し、住み手がまちづくりをしているという自信に満ち、生き生きと生活している印象を受けた。

以上から、貴重な歴史的ストックを活用することや交通アクセスが改善されることに加え、住民がまちづくり活動を通して、自らのまちに愛着と誇りを持てる状態をつくり出すことが、市街地の活性化にとって重要な要素であることを実感した。

### (4) 対外活動

本サロンで培ったプランナーとしての目を実践の場で更に磨きをかけるため、サロンメンバーの有志8名で、平成9年度の第4回都市計画キャラバン東松山大会（主催：日本都市計画家協会）に参加した。

対象地区である東松山市は、埼玉県の中央に位置し、毎年日本スリーデーマーチが開催され、国内ばかりか海外からも参加者を集め、3日間に渡り「歩くイベント」が行われる。従って、今回のキャラバンでは「歩き」をテーマとした東松山市のまちづくりについて考えることが課題として与えられた。

本チームは、スリーデーマーチのような「非日常的な歩き」ではなく、まちなかにおける「日常的な歩き」を対象とし、市民の立場から歩きたくなるまちなかづくりの提言と、これを実現化するための「歩きたくなるまちなかづくり」作戦の提案を行った。この提案で、本チームは優秀奨励賞を受賞した。

#### <歩きたくなるまちなかづくりの提言>

- ①変化に富んだネットワークづくり
- ②多様なニーズに応える空間づくり
- ③楽しく安心して歩けるみちづくり

#### <「歩きたくなるまちなかづくり」作戦>

- ①まちなかメイン道路のモール化
- ②シンボル広場づくり「王冠広場」
- ③楽しく歩ける路地裏づくり

- ・レトロの小道
- ・水たまりのできる道
- ・ツボ刺激の道 等

## 今後の展開

都市計画の歴史は、我が国の高度経済成長の歴史であり、「成長・消費社会」の価値体系に基づくプランニングが行われてきた。ところが、20世紀末から従来の価値体系の行き詰まりとともに、21世紀の将来像も見通せない状況になっている。こうした中で、現在確実に進んでいるのが「成熟・共生社会」であり、これからのプランナーに求められる商品価値は、世代を超えた新たな価値体系に基づくプランニングの視点を持つと同時に、そのための多岐にわたる人や情報のネットワークを持つことである。

表3に示すように、4年間で23回行ったサロンを通じ、大きく2つの方向性が見い出

された。

第一は、プランニングの原点となる「世代を超えた価値体系」の構築であり、「都市の魅力」と「環境共生」はまさしくそのテーマである。

第二は、プランナーに求められる商品価値（ノウハウ）として、「次世代型プランニングのツールとスキーム」に関する情報を持ち、アドバイザーとしての役割を果たすことであり、「協議型計画論」や「広域都市圏計画論」は必要不可欠なテーマである。

今後も更に人的ネットワークの拡大と情報交流・発信機能を強化しながら、本サロンを継続し、上記テーマの掘り下げとその体系化を図るとともに、これを実践の場で展開することを目指す。

表3 プランナーズ・アイ・サロン（PES）の開催経緯

回数	開催日	テ マ	話題提供者
第1回	H 9 .1 .17	・新生“PES”の旗揚げ	
第2回	H 9 2 .21	・PESで取り上げたいテーマ ・講演会に関する要望 ・ホームページによる情報発信	
第3回	H 9 3 .18	・4月以降の具体的な活動計画（案）	
第4回	H 9 4 .18	・PESの活動方針とその内容 ・年間スケジュール ・ホームページについて	
第5回	H 9 5 .16	・調査企画の提言 ・調査の進め方	
第6回	H 9 6 .6	・今後の活動方針 ・住民参加型まちづくりについて	
第7回	H 9 6 .20	・広域に関わる都市整備での合意形成のあり方 ～海外事例を傍証して～	大熊、矢嶋、岩佐 / IBS
第8回	H 9 7 .18	・都心の魅力を探る ・都市内・都市間競争に負けない都心の魅力	内山 / IBS 佐藤 / 都市総合計画
第9回	H 9 8 .1	・中野区における環境共生型まちづくり	太田 / ラバン 兼松、藤田 / ダイナックス
第10回	H 9 8 .29	・座談会「住民参加とコンサルタントの役割」	井上赫郎 / 首都圏総合計画 浅海義治 / 世田谷区まちづくりセンター 梅津政之輔 / 世田谷区民
第11回	H 9 9 .12	・地方中枢都市圏整備の課題と展望	梶川、兼重 / IBS
第12回	H 9 .10 3	・環境と共生するまちづくりを考える	島田、馬場 / IBS
第13回	H 9 .10 24	・都市の魅力を考える	石川 / 都市総合計画 岩佐、寺嶋 / IBS
第14回	H 9 .11 .14	・ストックホルム・イエテボリ視察報告を中心とする人と自然にやさしい街	鈴木奏到 / IBS
第15回	H 10 2 .13	・都市計画を取り巻く環境の変化と我々の仕事を考える	鈴木奏到 / IBS
第16回	H 10 6 .19	・地方中小都市中心市街地活性化について	
第17回	H 10 .10 23	・長野視察報告	鄭、志村 / 都市総合計画 平見 / IBS
第18回	H 11 .10 22	・自主研究としての今後の展開	
第19回	H 11 .11 .17	・自主研究としてのとりまとめ	
第20回	H 11 .12 .10	・自主研究の総括と今後の展開	
第21回	H 12 .10 .18	・都市計画情報の展望	渡邊 / IBS
第22回	H 12 .11 .8	・都市計画法の改正に対して ・都市計画と住民運動	渡邊 / IBS 鈴木弘之 / IBS
第23回	H 12 .12 .13	・交通実験の実態について	大久保 / 都市総合計画